

【88】現代の二宮金次郎？

近年のスマートフォン（以下、スマホ）の急速な普及は、便利な携帯電話という域を超えて、日常生活に欠かせない必需品になってしまいました。

道路の歩行中、乗物の車中、駅の階段やエスカレーター、恐らくトイレの中でも、あらゆる状況下でスマホを片時も離せないようです。

私は電車に乗ると新聞を広げる古典派ですが、この頃は老いも若きもスマホが主役で、本や週刊誌を読んでいる人も少なく、新聞派は私以外に見当たりません。

10両連結の電車全体でも一人だけじゃないかと思います。

階段の上り下りですれ違ったスマホに夢中な若い女性の姿を見たら、その頭と目線が少し下に向いた姿が、二宮金次郎の立像を思い出させました。

現代人には二宮金次郎といっても縁が薄いでしょうが、江戸時代末期の今の神奈川県小田原出身の篤農家、農政家で、少年時代に寸暇を惜しんで農仕事のあい間にも勉強に励んだという努力家でした。

その彼の薪の束を背負い本を開いて読みながら歩く姿の立像は、殆んど全ての小学校の校庭に建てられており、勉学のシンボルとされていたのですが、戦前をイメージしているというのでしょうか、いつの間にか撤去され、今では文化財的な貴重な存在になりました。

それを記憶していた私には、スマホを食い入るように見て歩いている現代人の姿とオーバーラップしたのです。

大いなる相異は、金次郎は書物から知識を得ようとしているのに対し、現代人はスマホから何を得ているのだろうかという点ですが、この辺は読者の皆さんの想像にお任せします。